



高島の自然と歴史が織り成すロマンチック街道 「中央分水嶺・高島トレイル」

中央分水嶺は、分水界、分水線、分水境界などといわれ、雨水が太平洋側、日本海側の異なる方向に流れる境界で、日本列島の背骨のように北海道から九州まで総延長は約5,000kmにおよびます。この内の約80kmが高島市に存在しています。ひとつの自治体で、これだけの中央分水嶺を有するところは全国的にも珍しく、市ではこの全国に誇れる貴重な資源を活かすため、地元山岳会や関係機関の協力を得て、トレッキングコースを整備し始めています。

こうした高島市の取り組みは滋賀県からも注目されており、「びわ湖・里山観光振興特区」の主要事業として位置づけられています。



高島トレイル誕生



高島トレイルは、高島市の誕生によりこれまでマキノ町、今津町、朽木村でそれぞれ地元の人々がコツコツと整備されてきた古道や登山道をつなぎ合わせて、自然が満喫できるひとすじの道として世に出すこととするものです。

市では、この道を「中央分水嶺・高島トレイル」として、地域の関係者と力を合わせてトレイル(自然歩道)の魅力を高め、全国の登山家をはじめ、トレッキング愛好家の方々に親しんでもらえるよう保全し活用していきます。

高島トレイルの特徴

この高島トレイルは、各地域の自発的な取り組みで行われてきた古道を活かした手づくりの登山道であるといふことと、白神山地(青森県)にも匹敵するほどのブナ林が存在するなど、豊かな自然に彩られた二つの特徴を持っています。

このトレイルコースは、マキノ町国境をスタートし、琵琶湖や若狭湾の景色を望むことができ、ブナ、ミズナラ、アシウスギなど豊かな自然を味わいながら、三重嶽や百里ヶ岳など多くの峰を越え、三国岳(朽木桑原)に至ります。横断する栗柄越、近江坂、鯖街道などの古道は、奈良や平安京の時代から輝かしい歴史を併せ持ち、自然と歴史を存分に味わうことができる複合的なトレイルです。